



迦陵園だより

平成27年1月発行
 社会福祉法人 迦陵園
 (児童養護施設)
 〒606-0802
 京都市左京区下鴨宮崎町109
 TEL (075)701-0250
 発行人 松浦弘和
 編集 迦陵園編集部

迦陵園 基本方針

— 養育目標 —

- ◎ 子どもの命と人権を守る。
- 人間性豊かな子を育てる。
- 心身共にたくましい子を育てる。
- 健全な社会人として生きていけるような子を育てる。



ヒツジ年の神さん

迦陵園後援会会長 新木 直人
 下鴨神社宮司

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

下鴨神社には、十二のエトの神さんが七つのお社にお祭りされています。それぞれのエトには、守り神さんがあって、その神さんが生まれ年の守護神としてお祭りされているのです。非常に珍しく、不思議な神さんです。

しかも、このお社の名は、言社一ことのやしろ、と言います。と言うのは、現在、私たちは毎日、本を読んだり、文字を書いたりしていますが、実は、文字を使うようになって二千年ほどの歴史しかありません。言葉だけの時代のほうがずっと長かったのです。

それだけに、言葉を大切に、特に数字については、約束ごとや日常の生活のうえでは、大切に大きな位置をしめていました。古代の人たちは、言葉や数字にも神秘的な自然の限りない霊力が働いていると考え神聖視してお祭りするようになりました。私たちの生きているこの宇宙もそうした神秘の世界にあって生命が保たれている、と考えていたのです。

一年という長い時間を冬至(とうじ)から始まり夏至(げし)へ、夏至から冬至という時の流れのなかで太陽と月と星の巡りを数字で表し、神々の御神徳と神秘の力に置き換え、動物にたとえて示していたのです。

ヒツジ年の神さんは、大國魂神(おほくにたまのかみ)というお名前です。日本神話の国ゆずりの神々のお一人で『古事記』では、大國主神(おほくにぬしのかみ)の別のお名前の神として登場されています。

ヒツジは、方角を表す場合は、南々西。昔の時刻では、午後二時ごろをヒツジと言っていました。旧暦では、六月のことでした。このように多様に時空を表す人々の毎日の生活の言葉として用いられていました。このときのヒツジの文字は、未と書きます。古い時代の人々にとっては、身近で親しみやすい語となっていたのです。

動物の羊は、何千年も前から人々に飼われ共に生活していました。平安時代の百科事典『和名抄』にも羊飼、と記されていますから、わが国では、古くからいたと思われます。

ヒは、ひげ、のこと。ツは、の。ジは、うし、のことを意味していると言ひ伝えられています。ヒゲをはやした牛とみていたのかもしれませんが。

新しい年は、ぜひとも穏やかで平穏な年でありますよう祈るばかりです。皆さんも元気でしっかりと勉強してください。

🌿🌿🌿 同友会との取り組み 🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿🌿

同友会 B B Q



主任保育士 脇戸 真実子

去る 9 月 21 日、晴れ。汗をかきながらバスに乗り込み出発。大森キャンプ場は涼しく程よい気候でした。同友会さん主催の BBQ では、各企業ごとに料理を作って披露するようで、子どもたちは、同友会の方々と一緒に、うどん打ち・パエリア・ピザなど様々なお料理を作りました。それが終わると、トランポリンをしたり、川に入ったり、キャッチボールをしたりと、一人一人自由に、楽しい時間を過ごしていました。帰りのバスでは遊び疲れてスヤスヤ…美味しいお肉、美味しい空気、ごちそうさまでした。

東南フェスタ

児童指導員 竹内 萌

11月29日、京都テルサで行われた東南フェスタに、同友会の「株式会社京のちから」さんがカフェを出店されるとのことで、そのお手伝いを、高校生の女の子3人と行ってきました！初めは少しドギマギしていましたが、慣れてくると率先して声を出しケーキを宣伝したり、バルーンを配ったりと、とても頼もしい3人でした。園では観る事のできない、カッコいい姿が見れ、嬉しく思いました。またお仕事が終わったあとは、フェスタにて抽選会を楽しんだり、充実した一日を過ごすことができました。



同友会食事・面談会

児童指導員 澤 亮太

12月25日、今年最後となる同友会さんとの食事・面談会をおこなわせて頂きました。年末のお忙しい時期にもかかわらずたくさんの方に参加していただくことができました。面談の場だけでなく、食事を一緒に食べることでいつもとは違う雰囲気、自然な形で会話を楽しんでいたように感じます。当日がクリスマスという事もあり、最初は子どもの参加人数が普段より少ないだろうと思っていましたが、最終的には普段通り参加する事ができました。学校での出来事や部活の話・これからやってみたいことや興味があることなど、ざっくばらんに話し合いをおこないました。今回で面談は七回目と徐々に回数を重ねてきており、子どもにもかなりこの活動が浸透しつつあります。今後も継続していき、長い目で子どもの活躍を見ていきたいと思っております。



招待行事等

うどんづくり

児童指導員 竹内 萌

9月、同友会の「谷口製麺所」さんにて、手打ちうどん教室に参加させてもらいました！講師の方が丁寧に教えてくださり、小さな体で一生懸命、体重をかけてうどん粉をこねます。均一にうどん粉をカットするのに悪戦苦闘。途中、お腹がすいて動けないという一幕も…そして頑張って作ったおうどんを、その場ですぐに調理してくださり、お昼ごはんに！子どもたちは「おいしい～」と、満足気に出来立てのおうどんを完食していました。

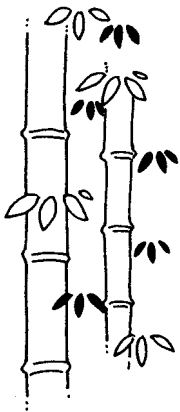
谷口製麺所さんでは、年末にも高校生男子2人がアルバイトさせてもらいました。「楽しかった」と話しており、また一つ良い経験になったようです。本当にお世話になりました。



里山づくり

児童指導員 木村 剛士

10月の里山づくりは里山の自然の道具を使った運動会でした。竹筒を使ってボウリングや竹の早切り競争、自然の借り物競争など、バラエティに富んだ内容で、子どもたちも毎回楽しみにしています。他の参加された方々と一緒に、一生懸命竹を切ったり、里山中に響くほどの声で応援したりと、笑顔が絶えず、全体がとてもいい雰囲気でした。途中にお昼休憩をはさみ、お腹を豚汁で満たし、午後も綱引きなどの競技もあり、一日を通して大満足でした。来年にはどんな新しい競技があるのか今から楽しみで、帰りの車内ではさっそく「来年はどんなんがあるんかな」と期待の声が飛び交っていました。



岩倉ハローウィン招待

主任児童指導員 若林 里仁

お世話になっているボランティアのオーガスティンさんが地域の方々と毎年催されているハローウィンパーティーに子どもたちとお招きいただきました。子どもたちはそれぞれ仮装して英語で挨拶をします。たくさんのおうちを回って袋いっぱいにお菓子をもらい、初めは怖がっていた子どもたちも笑顔で帰ってきました。私が子どもの頃にはハローウィンの習慣はまだなかったと思います。

本来、ハローウィンとは宗教行事でありましたが、クリスマス同様、民間行事として定着して日本にやってきました。大人が準備して子どもたちと共に楽しむものです。大人が子どものために色々なことをしてあげられる社会になってくれればと願うばかりです。





ナガシマスパーランド

児童指導員 副島 佳苗

11月24日わかさ生活さん招待で、ナガシマスパーランドに行ってきました。当日はとても良い天気で、みんないろんな乗り物に乗ろうと大張り切り。

キッズタウンでは幼児さんが大はしゃぎ、普段食べないお子様ランチにもハイテンションでした。

中高生は絶叫系に乗りまくるのかと思いきや、意外と乗れない子が多く控えめな乗り物で満足した様子。中には何度も急流すべりに乗って、ずぶ濡れになるのを楽しむ子も…。どちらかというとなりの女の子の方が絶叫好きなようで、一緒に回っていた中学生の女の子は、たくさん絶叫系に乗れて、とってもご満悦でした。

夕食は焼肉をお腹いっぱい頂き、夢授業では女子プロ野球の金山選手、村田選手よりそれぞれの経験談を元に、励みになる言葉を聴かせて頂きました。みんな真剣に聞き入り、とてもいい時間となりました。

BBQ ワークショップ

保育士 名越 郁未

滋賀県の比叡平にある行動科学研究所で行われる BBQ ワークショップ。前回は「株式会社 きたやま 南山」さんに招待して頂き、今回 2 度目の参加でした。

子どもたちは庭を一目見るとおお～という声が上がって何が始まるのかな？という表情。まずはみんなで火を起し食事の準備。子どもたちは火番を任せ頑張っていました。

目の前で豪快に焼かれるお肉、良い香りが漂うお手製フランスパン、子どもたちも協力して作った豚汁。子どもたちの食欲は普段以上でした。まき割りもさせて頂き、男の子はへっぴり腰……。女の子はまき割りの魅力に取りつかれてしまいました。

食事の後は、行動科学研究所の先生の講演会。子どもたちも真剣な表情で聞いていました。

子どもたちは自分の思っていること感じたことを発表し、とても良い表情で現地を後にすることができました。



エリッツ朝礼参加

児童指導員 竹内 萌

12月8日、「株式会社エリッツホールディングス」榎野社長のご招待で、合同朝礼に子どもたちと参加させて頂きました。初めてのことに迦陵園一同、少し緊張した面持ちで会場へ。綺麗に整列した社員の方々の間に入れてもらい、肩に力が入ります。朝礼が始まると、社訓の読み上げ、あいさつ練習、イングリッシュレッスンなど、みなさんお腹から声を出しておられ、とても気迫ある朝礼でした。参加した子は「普段体験できないことができて、一つ大きくなれた気がする」と話していました。またこの高校生の男の子は、朝礼後の社長との対談にも参加し、さらに DVD まで貰ってしまいました！将来に悩める高校生に力強いアドバイスを頂き、彼がこれからどんな風が変わっていくのか楽しみです。



緊張でガチガチのひかるくん…



迦陵園クリスマス会

主任児童指導員 松本 悟史

昨年の 12 月 23 日、今年も 100 人以上のお客様に来園していただいた中で、迦陵園年間最大行事のクリスマス会を開催することができました。

今年のクリスマス会は「夢」をテーマに構成し、また新たな取り組みとして、ミュージカル劇や幼児の劇、バンド演奏なども取り入れました。また今年も昨年に引き続き特別ゲストとして、女子プロ野球選手 3 名の方々にも来ていただきました。

今年はこのクリスマス会に向けての準備も、昨年より早い時期から始めたり、練習もバンド組がスタジオを借りたりと、本格的に取り組んだこともあり、出し物の完成度が昨年以上でしたし、そのこともあって、盛り上がりもとてもよかったですと感じています。

クリスマス会が終わってから、来ていただいたお客様からも、「以前よりも活気がありますね。」や、「感動しました。」など様々な嬉しいお言葉を頂戴いたしました。これらのことは必ず子どもたちの自信につながっていくと思いますし、本当にクリスマス会を続けていてよかったと感じることができました。

また来年も今年以上に、来ていただいたお客様にとっても、園児にとっても幸せな気持ちになれるような会を目指してみんなで努力していきたいと思っています。

静原 米作りつどいプロジェクト

迦陵園では、「株式会社 きたやま南山」さんの紹介で、有機無農薬でお米を育てる年間学習プログラムに参加しています。昨年一年間の取り組みをご紹介します！



5月 田植え

初めての田んぼに泣き出す子ども…泥んこになりながら、一つ一つ手で植えていきます。頑張って田植えをした後のお昼ごはんは格別！！

7月 草取り

無農薬栽培では、こまめな草取りがとても大切とのこと。子どもたちも気合いを入れて草を取ります。おいしいお米になあれ！



9月 稲刈り

田んぼに着くと、7月とは全く違う景色が！自分で植えた稲たちが黄金に実っているのを見て、感動の聲が聞こえてきます。鎌での刈取り作業は少し力がいり、「疲れた～」と言いながらも清々しい表情でした。刈り取った稲は束ねて稲木にかけ、天日干しに。

12月 餅つき

いよいよ出来上がったお米で餅つきです。木槌の重さに負けないようにぺったんぺったん。きなこも豆から挽いて作りました！やはり5月から見てきたお米がお餅になっていく瞬間というのは感動的でした。こういう体験があってこそ、実際に食物に感謝することができるのだと思います。みんなニコニコしながら、おいしく頂きました。ごちそうさまでした。



この1年間、子どもたちに米作りを教え、圃の堆肥作りにもアドバイスをくださっていた特定非営利活動法人スモールファーマーズの理事長、岩崎さんからコメントを頂きました！

今回、1年間の稲作体験を通して、回を重ねるたびに、子どもたちひとりひとりの表情が、最初の頃と比べて本当に豊かになったと感じました。毎回田んぼでイネが成長する様子を目の当たりにしながら、たくさんの生き物と出会い、泥まみれになって自然を肌で感じたこの経験は「生きる」ことの原点だと思います。飽食のこの時代に、面倒くさいけど、敢えて手作業で自分の手で食べ物を育てた経験は、大人になってから、きっと生きる勇気につながると思います。途中イノシシ被害もありましたが、最後にはおいしいお米が収穫できました。1年間がんばってくれた子どもたち、職員の皆様、そして自然の恵みに感謝したいと思います。ありがとうございました。

いただきます・ありがとう協働隊 実行委員 岩崎吉隆



園庭・堆肥作り

児童指導員 梅津 幸生

現在迦陵園の園庭ではイチゴを栽培しています。すくすくと順調に成長しており、葉が大きくなったり花が咲いたりすることに一喜一憂する毎日です。

実はイチゴを育てている土は、生ごみを混ぜて作った生ごみ堆肥を使用しています。先日やきにくの南山さんの生ごみ堆肥講座に参加させていただいてから、園でも生ごみ堆肥を作っています。しかし土に対して生ごみをどのくらい混ぜるのか、どのくらい水を入れたら良いのか等、試行錯誤する毎日です。ときには失敗をしながらも、迦陵園なりのマニュアルができつつあります。今後は畝の土にも生ごみ堆肥を混ぜていきたいと考えています。

現在園庭に 4 つある畝を 2 つ増やしたり、柵をつけたりする計画をしています。園庭が更に充実したものになるよう、様々な工夫をこらしていきたいと思ひます。

Congratulations!!



銀賞受賞作品



昨年度、高校 3 年生の近藤樹里ちゃんが「全国児童養護施設 絵画コンクール」にて銀賞を！
同じく高校 3 年生の夜久直登くんがスペシャルオリンピックス バレー部門で優勝！
今年度にロサンゼルスで行われる世界大会に出場することが決まりました！おめでとう！！

迦陵園後援会入会のご案内 ～子ども達の応援団になって下さい～

迦陵園後援会新会員募集

迦陵園後援会は迦陵園に入所している子どもたちの生活に関する助成を目的としています。子どもたちの生活をより充実させるため皆様方のさらなる支援を必要としています。そこで大変恐縮ではありますが、迦陵園後援会の趣旨に賛同していただき、何卒ご入会いただきますようお願い申し上げます。詳しくは施設長松浦までご連絡下さい。

☆年会費（口数の制限はありません）

法人会員 1口 5,000 円

個人会員 1口 2,000 円



児童養護施設におけるセラピストの仕事の実際 第 4 回

～気持ちを考えるということ②～

心理療法士 横山 隆行

明けましておめでとうございます。今年も頑張っこの連載を続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

前は「気持ちを考えるということ」について、主にセラピストがセラピーを受ける人の気持ちについて考える作業についてお話ししたので、今回はセラピーを受ける人が自分の気持ちについて考えることについてお話ししたいと思います。

「自分の気持ちを考える」というフレーズは私達のようなセラピストの間ではよく使う言葉なのですが、自分の気持ちについて考えるとはどのようなことなのでしょう。自分の気持ちは自分が一番よく分かっていると思われる方も多いと思います。しかし、私達には考えにならない漠然とした気持ちや、考えたくない気持ちが存在します。考えにならない漠然とした気持ちとは、なんとなく苛々したり、落ち込んだりするけれど、それがどうしてかよく分からないということが私達にはしばしばあるのではないのでしょうか。そのような現象は気持ちのレベルでは感じられているけれども、思考のレベルでは考えられていない状態を指しています。私達は主観的に何かを感じる時、まずはなんとなく悲しい、腹が立つという漠然としたものからスタートします。その気持ちについて、「こうだから悲しい（腹が立つ）のだ」と考えるのはその後の段階です。セラピーを必要とする人達は、このような気持ちを思考にすることに何らかの要因で困難を抱えている場合が多いように思われます。

次に考えたくない気持ちは文字通り感じたくない、認めたくないという気持ちです。私達は考えたくない気持ちを考えないで済むように様々な方法を使って意識に上がって来ないようにしています。無理やり心の奥底に押し込めようとしたり、意識から切り離して忘れてしまおうとしたり、その気持ちや体験自体がなかったことにして否定したりと様々です。こういった方法は自分を辛い気持ちから守っているのであり、防衛機制と呼ばれます。辛い気持ちを防衛すること自体は人間の本能的な行為であり、それ自体は悪いことではありません。問題なのは考えたくない気持ちがあまりに強く、そういった方法では自分の気持ちを守りきれない場合です。例えば、人前で躓いてくればその時はとても恥ずかしいかもしれませんが、多くの人はしばらくすれば忘れることができるでしょう。しかし、傷つきやすい子ども時代の体験は防衛機制を使用しても、その人をずっと苦しめ続けることがあります。

児童養護施設に入所している子どもたちは皆それぞれに辛い体験の記憶を持っています。子どもたちの中は辛い気持ちを感じると、リストカットなどの自傷行為で排出しようとしたり、怒りに支配されて暴力を振ってしまうことがあります。こういった行為に共通することは、自分が感じる気持ちに持ち堪えることができず心の中に収めきれないようになって、自分の気持ちについて考えられない状態になっているということです。

ある研究で子ども時代に虐待を受けた人を調査したものがああります。その人が大人になって情緒的に安定した生活を送れるかどうかは自分の体験したことを系統だって話せるかどうか重要だと示すものがああります。つまり、子ども時代に辛い体験をしても自分の体験をきちんと意識化できること、またその体験を整理して言語化できることが安定した生活を送っていく為大切なのです。この研究は子ども時代に虐待を受けた親が自分の子どもに虐待をしてしまう世代間連鎖の問題についても大きな示唆を与えています。

セラピーは漠然とした気持ちや考えたくない気持ちとじっくり向き合っていく作業ですが、誰もが自分の辛い体験や気持ちは考えたくありません。施設の子もたちの中にもセラピーを勧めても最初から拒否をして取り組めない子どももいますし、セラピーを始めようとお試し期間を設定しても辛い気持ちが浮かび上がってくることに気付いて継続的に取り組む前に中断してしまう子どももいます。そういった子どもはまた時期を見て勧めることになりませんが、児童養護施設は基本的に 18 歳までしか入れられないので時間が限られていますし、18 歳まで入所しているとは限りません。そのため、私はセラピーが必要だろうと考えられる子どもについて、いつセラピーをしていくことが適当なのかということを考えて私から働きかけていく必要があります。このように、児童養護施設でのセラピーは子どもの状況や発達年齢を検討しながらセラピストから能動的な働きかけが必要になるという点で一般的な来談型のセラピーとは違う部分があるのです。

編集者からの
ひとこと

昨年度、多くの方の支えがあり、子どもたちも迦陵園も大きく成長することができました。本当にありがとうございました。この私たちの成長と感謝の気持ちが、園だよりから伝われば幸いです。これからも「伝わる園だより」を目指していきたいと思ひます。また、迦陵園のホームページもただいま作成中ですので、こちらも要チェックです！

今年も迦陵園一同、よろしくお願い致します。

編集委員 竹内 萌